

平成30年度岡山県文化振興審議会議事概要

日 時：平成31年2月13日（水）10時～11時30分

場 所：ルネスホール ワークルーム

1 開会 環境文化部長あいさつ

2 会長及び副会長の選任 会長に臼井委員、副会長に赤木委員を選任

3 議題

- ・平成30年度県実施事業
- ・おかやま文化振興ビジョン成果指標実績
- ・平成31年度県重点事業

事務局

- ・資料に基づき説明

委 員

- ・「おかやま文化芸術アソシエイツ事業」は色々な分野、領域を横断しており興味深い。ただ、興味のある人達に情報が届いているのかが気になる。毎回定員以上集客できているが今以上に多くの人への情報発信や、ニーズの掘り下げをしていただきたい。今後を楽しみにしている。
- ・重点事業については、来年度に向けて前向きな姿勢が受け取れた。
- ・県立美術館を訪れる学校関係者の人数が減っていることが心配だ。
- ・県立美術館は、学校向けに来場のための早期の情報提供をどれほどしているのか、学校には、早めに展覧会の情報を伝えないと動きにくい。
- ・校外に出て行きにくくなっている現状を認識した上で、県教育委員会等と連携して方針を立てていくべきだ。

事務局

- ・県立美術館では、児童生徒の来場に重点的に取り組んでおり、今年度から学校関係者と活用方法について話し合いを始めている。学校側も文化を活用した教育の重要性は認識しており増加に向けて頑張っていきたい。

委 員

- ・先般の冬季国体では、多くの人や学校側が協力しあって、児童が冬季国体の応

援体験が実現できていた。協力し合えば実現できるのではないか。

委員

- ・ノウハウを共有すべきである。例えば、県立美術館のアート・トラベリング・トランクは素晴らしく、他の美術館と共有できれば良い。
- ・私立、公立の枠を超えてノウハウの共有のための情報交換を進めるべきだ。
- ・「文化芸術アソシエイツ事業」はパイオニア的な事業で世界に誇れる事業だ。貴重な事業と評価する事が大事で、重点的に育てていきたい。
- ・国民文化祭の遺産に、県民文化祭が全県で事業を展開できていることにある。引き続き全県レベルの視野を持ってやっていただきたい。
- ・成果指標の文化施設の訪問者数の対象に、岡山市以外の施設も加えるなど、全県レベルに視野を拡げてほしい。
- ・人文知が注目されている。文化庁が作った「人間文化研究機構」に「人文知コミュニケーター」という職ができ、また、「人文知応援団」を作ろうという活動が始まっている。今後動きに注目してほしい。
- ・文化振興課は観光支援課ではない。人文知を根付かせることが求められる。
- ・教育担当も含めて県内の文化団体同士がコミュニケーションし、情報を共有することで連携を深めてほしい。

委員

- ・小・中・高、私立、県立、市立などの枠を解いて全体で一回シンポジウムを組むのもよいかもしれない。人文知はとても大切である。人間とは何か、心とは何かをテーマに。

委員

- ・市内の中学校では、教育委員会の美術専門教員が1人しかおらず、美術の教育がほとんどできていない状況もあると聞いた。そうした状況の中、生徒を美術館に連れて行くことは難しいように思われる。
- ・アメリカには以前からオルタナティブの発想がある。この10年来、文化振興課は色々な地域で文化事業を展開していることは理解できる。基本はやはり子供だ。県が育てた100人の人材達などと連携を取り、面白くアートが展開できればよい。
- ・文化事業の会期が9月頃から12月頃に重なっていることが問題だ。企画をするとその人たちは他を見に行くことができない。
- ・県が実施している障害者のための展覧会をもっと周知すると、パラリンピックにからめた事業の展開も可能だ。

- ・県は、施設と連携しながら、障害者の方達と作り上げる場ができればと思う。
- ・利用できる施設や建物がどれくらいあるのかを把握することが必要。基地になるものがあれば活動が広がるのではないかな。
- ・国や民間団体などの助成金の情報を周知してほしい。
- ・重点事業の中で、岡山芸術交流の開催予算として県から5千万円支出することになっている。岡山市と石川文化振興財団とで行う形の選択や選任が気になる。
- ・岡山は天神山文化プラザの中に芸術アソシエイツのセクションがあるのでアソシエイツがかかわる形で、もう少し国の予算を取ってきて欲しい。

委員

- ・補助金や助成金については、文化振興課で一括したものの情報提供ができるかと活用が活性化するのではないかな。

委員

- ・ビヨンド2020文化プログラムの登録件数は伸びているようだが、その内容やエリア、どういう人たちが関わっているかに興味がある。
- ・内容がわかり、足りていない点がわかれば、そこを支援していこうということになる。
- ・最近の子供達にとってSNSは身近な存在になっているが、デジタルコンテンツだけで知った気になっているのではないかな。本物の空間に身を置いてみる体験が学校教育の中で求められている。
- ・本物体験をSNSで発信していく力に変えていくという総合的な教育がこれからは求められているのではないかな。
- ・芸術祭の開催は強烈なインパクトがあり、人も大勢来て華々しいが、その後に、豊かな地域が残っているだろうか。「ゆるさ」に自生するアートを淘汰してしまう恐れもあるのではないかな。インパクトの後の社会を寛容性があるものに変革するにはどうしたらいいか、その実験を続けていくためのバックグラウンドとして、県の存在意義があるのではないかな。
- ・3年に1度のイベントの度に、小さい団体が一緒に盛り上げ裾野が広がるのはよいが、イベントが抜けたときに消えてしまうようでは意味がない。
- ・外から人を呼び込むだけの芸術祭ではなく、最後までそこで生きていこうとしている人達が人文知としてどう残っていくかという点を若い人に伝えていく必要がある。

委員

- ・事務局は、どこが足りてどこが余っているかというバランスを常に考え、重点事業を組んでいけば、効率的にお金を使えるのではないか。

委員

- ・貧富の差が拡大し、家庭に、子供を美術館に連れていくことを期待することができない状況があり、学校教育の必要性を強く感じている。講師派遣に助成金が出る制度などの情報発信を、しっかりしていただきたい。
- ・岡山県教育委員会が後援する大会や競技会に関し、賞状等をあげることを積極的に提案すれば、ジュニアの育成が活気付くのではないか。

委員

- ・来年度の重点事業が文化芸術アソシエイツとアートプロジェクトに特化されている。
- ・県の文化ビジョンには文化の対象範囲は、芸術、生活文化、伝統文化とあるが、この重点事業は、芸術部門に偏っている。文化全体に目配りをするを一つの課題にしていただきたい。
- ・伝統文化に関する最新情報をお知らせすると、2月1日に風流の保存振興連合会ができた。ユネスコの無形文化遺産登録のためには個々の名称では難しいので色々な踊りを全部まとめて風流とし、全国で36の指定文化財を一堂に会し連合会を作った。風流の連合会に岡山県からは「大宮踊り」「白石踊り」が入っている。
- ・高梁の「松山踊り」も全国的には有名だ。盆踊りの系統をどうするかという目配りをするだけで県全体にこういう問題があると考えてもらえ、また参加のきっかけになるのではないかと思う。

委員

- ・人間生きていく上で最低限のバックボーンとして、伝統文化が必要だ。それを見逃すことなく、大切なもの、あるいはバランスとして大切なものを勘案しながら全体を見通して指導して欲しい。

委員

- ・今の伝統文化や伝統民族文化について、備中備後美作地域は濃密な地域であり日本全体の宝だということを強く認識してほしい。

事務局

- 学校との連携について、学校のカリキュラムが一杯一杯という事情が存在していることは認識しつつ、学校あるいは文化関係団体とさらに連携を図ってまいりたい。
- 既存の「アートで地域づくり」や「アートのマネジメントができる人の養成」については、過去の受講生が後輩を指導するなど、良い循環ができてきている。情報発信も含めて人材の活用を進めてまいりたい。
- 平成 31 年度重点事業として紹介したアートプロジェクトおかやまについては、来年度に特化して追加で獲得したものだ。生活文化や伝統文化についても、既存の様々な予算や、私共の事業支援制度等を活用し引き続き取り組んでいくものであり、重点事業のみを文化施策としてやっているものではない。
- 実施には文化連盟や郷土文化団体を始めとした市町村、関係文化団体と連携していきたい。特に県民文化祭は県下全市町村と連携をしながら進めている。その中で「備中神楽」や「横仙歌舞伎」等の文化団体にも参加をしていただいている。そちらの事業についても引き続き重点的にやってまいりたい。
- 引き続き教育委員会等とも連携し、全体に目配りをして実施をする中で効果を上げてまいりたい。
- ビジョンに基づき、委員の意見を踏まえて事業を進めてまいりたい。

3 その他 なし

4 閉 会